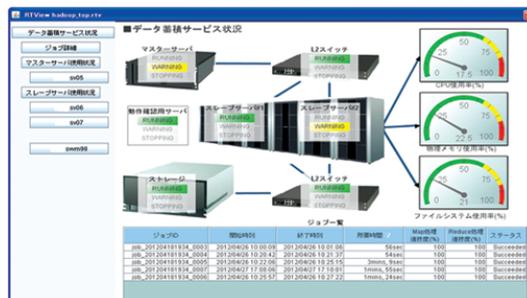


富士通ミッションクリティカルシステムズが、オンプレミス(自社運用)型ビッグデータ向けプラットフォーム・ソリューションの開発で、SL社のRTViewを採用 複合イベント処理(CEP)エンジンと運用管理システムに接続したRTViewによるリアルタイムな可視化と監視

2012年4月27日 プレス・リリースより:

リアルタイム・データのグラフィックな可視化と監視で業界をリードする株式会社SL ジャパンは、公共・社会インフラで極めて重要なシステムの構築と運用で業界をリードする株式会社富士通ミッションクリティカルシステムズ(以下「FMCS」)が、ビッグデータ向けプラットフォーム・ソリューションの開発で、SL社のRTViewを採用したことを発表しました。今後FMCSで開発される関連ソリューションでは、複合イベント処理(CEP)エンジンならびに運用管理システムに接続したRTViewによって、ビッグデータのリアルタイムな可視化と監視を実現します。

FMCSでは、同社の最先端技術力と長年培ってきたノウハウを融合し、人々の生活を支える金融決済システムや政府・官公庁の公共システムなど、公共性・社会性の高いミッション・クリティカル・システムの安心安全な開発と運用で、社会に貢献しています。同社ではエネルギー、メディア、金融、政府・官公庁をはじめとする業種向けのビッグデータ活用に最適化したプラットフォームの開発に取り組んでおり、スマートグリッド、ログ活用、マーケット分析などのビッグデータの活用が見込まれる各種システムの実現に、複合イベント処理(CEP)エンジン技術を駆使しています。そして、そのビッグデータのリアルタイムな可視化と監視ならびに運用管理の効率化に、SL社のRTViewが使われています。



RTViewによる運用管理画面例

RTViewは、Oracle CEPやTIBCO BusinessEventsなど、時々刻々と発生する大量のイベントストリーム・データを随時メモリ上で高速に処理していく「複合イベント処理(CEP)エンジン」のベストマッチなBAM(ビジネス・アクティビティ監視)ダッシュボードとして、この分野で実績を誇っています。RTViewのJMSデータ接続アダプタなどでCEPエンジンとダイレクトに接続し、リアルタイムにダッシュボード画面へイベントストリーム・データをインメモリで高速に集約して表示できるからです。さらに、RTViewではそのJMXデータ接続アダプタを使ってCEPエンジンそのものの遅延やスループットも可視化できるため、ビッグデータのコンテンツとそれが依存するインフラの両方を可視化して監視できる強力なソリューションが実現可能です。

プレス・リリース全文: www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2012/sl_j_press_120427.shtml

SL ジャパン、Oracle OpenWorld Tokyo 2012 にスポンサー出展 「クラウド、ビッグデータ、データグリッドの性能監視」をテーマに実演



SL ジャパンは、去る4月4日～6日、六本木で開催された日本オラクル株式会社主催のOracle OpenWorld Tokyo 2012にスポンサー出展し、リアルタイム・データの可視化と監視を実演しました:

- Oracle Coherence Monitor (OCM) による、クラスター/グリッド・アプリケーションの性能監視
- RTView for APM による、WebLogic アプリケーション・サーバの性能監視
- Oracle CEP のインフラ監視とイベントストリーム・ビッグデータの可視化と監視
- Oracle Database に接続したRTViewのヒストリアン機能による、履歴データ内容に応じたアラートの生成とトレンド分析
- その他、スマートグリッドの可視化と監視デモなど



SL社のRTView for APMは、ビジネスやサービスが見えるインフラ/アプリケーション性能監視システムをカスタム構築できる、リアルタイム・データの可視化と監視ツールです。JMS, JMX, SQL, XML などをはじめとするさまざまなデータ接続アダプタによって、任意のデータソースにビルダーからメニュー選択するだけでダイレクトに接続し、インメモリで高速に集約して表示できます。

リアルタイムなアラートとヒストリアンによる履歴データとともに、ビジネス・サービスからアプリケーション、そのインフラ・コンポーネントへとドリルダウン分析し、システム障害がサービスやアプリケーションに影響を及ぼす前に、性能問題の根本原因をピンポイントで特定して対応できる、カスタム一元監視システムを実現できます。

詳細サイト: www.sl-j.co.jp/newsevents/oowtokyo2012_120217.shtml

Oracle 環境におけるRTViewによる性能監視(PDF): www.sl-j.co.jp/products/resources/pdfs/1204_oraclecep_oowt2012.pdf

比類なく Web 運用に強い監視制御システムとそのエンドユーザ向けの専用エディタの開発をさらに支援強化

2012年5月23日プレス・リリースより:

SL ジャパンは、SL-GMS Developer for .NET ならびに SL-GMS Custom Editor for .NET 製品の新しいバージョン 4.1a を、今月末に一般リリースします。透過オブジェクトのサポートなどを含むこの新しいバージョンは、32 bit ならびに 64 bit Windows 版の両製品でリリースされます。

「透過オブジェクトのサポートは、SL-GMS を組み込み再販されている複数のお客様からご要求があって対応した一例である」と、SL 社の製品担当副社長であるロドニー・モリソンはコメントしました。「昨年9月にリリースした新しい 64 bit Windows 版製品に続く今回のリリース・バージョンは、最もパワフルで使い勝手の良い高度な監視制御システムの開発と最短の市場投入時間の実現で、引き続き SL 社の重要なパートナー様とお客様を支援コミットするものである」と、追加しました。

プレス・リリース全文:

www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2012/slj_press_120523.shtml



コンテンツリッチで高対話性ながらもコンパクトで高速なダイナミック GUI/HMI (透過オブジェクト使用例)

SL 社、IBM Impact 2012 でクラウドの性能監視について講演

展示会場では、IBM SmartCloud のスマート・モニタリングを実演

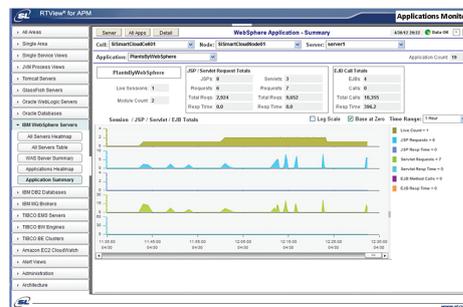
米 SL 本社は、去る 4 月 27 日～ 5 月 4 日にラスベガスで開催された IBM Impact 2012 グローバル・カンファレンスで、「Don't Underestimate Monitoring in the Cloud!」と題し、クラウドのスマート・モニタリングについて、今後の動向などを含めて講演しました。また、展示会場では、IBM SmartCloud をベースにしたアプリケーションとコンポーネントを一元監視できる RTView for APM によるスマート・モニタリングを実演しました。

SL 社が提供するモニタリングでは、WebSphere アプリケーション・サーバ、DB2、IBM WebSphere MQ の監視をサポートしており、SmartCloud 内にこれらの IBM コンポーネントを監視する RTView エージェントまたは監視システム全体をデプロイすることが可能です。IBM ミドルウェアのサポートに加え、RTView はその他数々のミドルウェア・コンポーネントを監視するように構成できるため、ユーザはクロス・ベンダーで構成されるクラウド・ベースのミドルウェアすべてを一元監視できます。

IBM SmartCloud 監視ソリューションについて: www.sl-j.co.jp/solutions/IBM_users.shtml

IBM Impact 2012 での講演プレゼン資料(英語): www.sl.com/pdfs/SL-IBMImpact2012.pdf

関連プレス・リリース: www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2012/slj_press_120424.shtml



クリックで拡大表示

SL-GMS セミナ開催のご案内

「SL-GMS による、比類なく Web 運用に強い監視制御システムとその専用カスタム・エディタの構築」セミナー

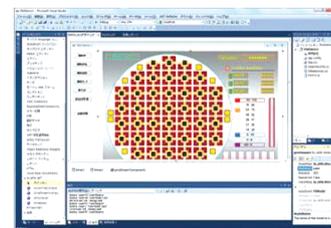
～ 最短の市場投入時間と画面開発・保守コスト削減で実現する開発技法と実例 ～

★2012年6月22日(金) 15:00～17:00 [無料・事前登録制]

@スタジアムプレイス青山(外苑前駅徒歩2分)

セミナー・サイト: www.sl-j.co.jp/newsevents/seminar/seminar_dotnet.shtml

電力プラント監視、空港・鉄道などの設備監視、ビル管理(BA)、水処理、製造ライン監視など、早期に Microsoft .NET へ移行して出荷をされてきた SL 社の国内ユーザ様の事例とともに、SL-GMS Developer for .NET と Custom Editor for .NET による監視制御システムのリアルタイム・ダイナミック GUI と専用エディタの構築が、いかに最短の市場投入時間で支援し、膨大な画面開発・保守コストを削減できるかの秘訣を、デモで解説してまいります。



Visual Studio 2010 を使った SL-GMS の Windows フォーム・アプリケーションの開発手順と技法、その Windows フォーム・アプリケーションを Web 運用できる4つの選択肢(※)とその技法などを、サンプルを使って具体的に説明いたします。

(※)ClickOnce/XBAPによるブラウザ運用、ClickOnceによるブラウザから起動するクライアント・アプリケーション運用、TS Web 運用など。

また、セミナーでは SL-GMS J/Developer (Java) 製品による Web 運用システムの開発についても、合わせてご紹介いたします。

☆セミナーのお申し込みは、Newsletter 返信用ファックス、電子メール seminar@sl-j.co.jp またはセミナー・サイトから承っております。

Real-Time Visibility



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

年3回発行 2012年5月25日発行 通巻42号

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。